

# 泉穴師神社

# 春祭



日時 令和6年4月5日  
午前10時～ 春季大祭(献花・献茶)  
午前11時～午後2時 御神楽祈禱(神楽券)  
午後2時30分～ 管弦・神楽・舞楽奉奏  
午後4時半～ 餅まき神事

※時間は変更する場合があります  
午前11時より無料でお抹茶をお召し上がりいただけます  
(お菓子が無くなり次第終了します)

場所 泉穴師神社  
大阪府泉大津市豊中町1-1-1  
お問い合わせ 電話0725-32-2610

# 令和6年泉穴師神社春祭 管弦・神楽・舞楽 演目

## 「管弦」

ばんしきちょう

### 盤渉調 音取

せいかいは

### 青海波

一説には、中国西域地方の青海省の地名を用いたという説。また、和邇部太田麿（わにべのおおたまろ）が曲を作り、良峯安世（よしみねのやすよ）が舞を作り、小野篁が詠を作ったともいわれ、我が国が産んだ舞曲であろうと考えられています。特に、打ち物の奏法に千鳥懸（ちどりかけ）、男波（おなみ）、女波（めなみ）などという粋な美しい名称が付けられています。

青海波の楽曲は、現在は盤渉調（ばんしきちょう）が原曲で、それが黄鐘調（おうしきちょう）に移調されたと言われています。しかし、山井清雄氏蔵の笛の楽譜には、「昔者平調曲也而来和御時依初被遷当調子多」とあります。この書物がいつごろ写されたものかは不明ですが、元々平調の曲であったというのも演奏内容からすればうなずけます。（出典 | おやさと雅楽会；曲目解説より抜粋）

## 「なにわ神楽」

おおやまさち

### 大山幸

「あずさ弓 手にとり持ちて ちはやふる 神のみ前に 今日ぞまつれる」

おうぎしほうはい

### 扇四方拝

「おろがみし ここもたかまの 原なれば つどいたまえや よもの神々」

## 「舞楽」

### 左方舞

かてんきゅう

### 賀殿急

緩やかでやわらかな舞が特徴の左方の平舞（ひらまい：文舞[ぶんのまい]

ともいう）です。

承和（じょうわ）年間（834～848年）、遣唐使として唐に渡った藤原貞敏（ふじわらのさだとし）が将来した『賀殿（かてん）』の「急」を中心に、一具が整えられました。

双調にも渡され、管絃でも古くからよく演奏されてきました。

その名称から、新築祝いにふさわしい演目として奏されることが多い曲目です。

（文化デジタルライブラリーより抜粋）

### 右方舞

ばとう

### 抜頭

林邑（チャンパ）から伝来したとの説もある。舞があり、1人舞。舞人は朱色の装束を着、鼻が高く髪の長い赤い面をつけ、太い桴（ばち）を持つ。笛による「古楽乱声（らんじょう）」

を伴奏に登場の舞を舞い、「音取（ねとり）」のあと当曲の舞となり、当曲を続けるうちに退場する。唐の後妃で鬼になった姿を模した舞ともいわれる。早只拍子のリズムによる舞と夜多羅（やたら）拍子のリズムによる舞の2種があり、前者は左方、後者は右方の舞に配されている。（出典 | ブリタニカ国際大百科事典 小項目事典より抜粋）

### 太食調

### 音取

### 長慶子三度拍子

演奏：雅楽寮日本雅友会